

《第一部》ショート講義「クラス会議」

1. クラス会議の概要

1.1. 「クラス会議との出会い」

1.2. テキスト：クラス会議で子どもが変わる - アドラー心理学でポジティブ学級づくり ジェーン・ネルセン，リン・ロット，H・ステファン・グレン著（会沢信彦訳，諸富祥彦解説）

1.3. 教室における“ポジティブ・ディシプリン”プログラム実現のために，パズルを組み立てる。

1.3.1. 思いやりがあり，かつ，断固としていること，尊厳と相互尊敬に基づいたケアリングの雰囲気を作り上げること【共通テーマ1】

1.3.1.1. 相互尊敬：一方通行ではない。

- 大人たちに対して，子どもたちを人間としてかけがえのない個人としてみることを要求する。子どもたちを「教師の都合のいいように」コントロールされることしかできないロボットとして扱う。
- 若者たちに対して，大人を自分たちと同じように世話と勇気づけを必要としている人々としてみるようにうながす。
- 相互尊敬の風土は，生徒たちがお互いに耳を傾け，真摯にお互いを理解し，全体の利益のためにお互いに手を取り合って問題を解決する。そして，そのようなやり方を教師が認めることによって創り上げられる。

1.3.1.2. ケアリングの雰囲気：思いやりがあると同時に断固としていること。

- 尊敬と勇気づけはケアリングを構成する二つの基本的な要素。
- バリア（若者たちを尊敬せず勇気をくじく，大人たちが用いる一般的な行動）とビルダー（若者たちを尊敬し勇気づける行動）
 - ◇ バリア1：決めつけること ビルダー1：確かめること
 - ◇ バリア2：救い出すこと/説明すること ビルダー2：問いかけること
 - ◇ バリア3：指示すること ビルダー3：誘うこと/勇気づけること
 - ◇ バリア4：期待すること ビルダー4：賞賛すること
 - ◇ バリア5：大人中心主義 ビルダー5：尊敬すること

1.3.2. 定期的に開かれるクラス会議

1.3.2.1. 成功するクラス会議のための六つの法則

- 1 毎日クラス会議を行きましょう。
- 2 輪になりましょう。
- 3 結果ではなく，解決に注目しましょう。
- 4 トーキングスティック
- 5 問題を議題に出した生徒が，解決策を選ぶことを認めましょう。
- 6 クラス会議のプロセスを学ぶまで，トレーニングのための時間を考慮しましょう。

1.3.2.2. クラス会議の進め方

- 1 コンプリメントと感謝の言葉。
- 2 前回の解決策について検討する。
- 3 議事
 - a 相手の話を聞き，感情を分かち合う。
 - b 自由に議論する。
 - c 問題解決のための手助けを求める。
- 4 これからの計画を立てる。(遠足，パーティ，プロジェクト)

1.3.2.3. 効果的なクラス会議のための，八つの基本要素

- 輪になる
- コンプリメントと感謝の言葉を練習する エクササイズ
- 議題を出す
- コミュニケーションスキルを伸ばす 傾聴，私メッセージ
- 異なった現実について学ぶ エクササイズ
- 人が行動する四つの理由を理解する
- ロールプレイとブレインストーミングを練習する
- 罰を用いない解決に焦点を当てる

1.3.3. 4つの誤った行動の目的を理解する

1.3.4. 支持的なフィードバックによる勇気づけ

1.3.5. ポジティブ・ディシプリンの学級経営ツールを用いること【共通テーマ2】

- 選択肢を限定する
- 役割を与える
- 問題解決 問題解決のための四つのステップ
- 尊厳と尊敬の念をもって最後まで貫き通す
- 「何が」「なぜ」「どうやって」と言わないで質問する
- 方向換えの質問
- 何もしない(自然の結末)
- 自分がすべきことを決める
- 尊厳と尊敬の念をもって「ノー」と言う
- より多く行動し，より少なく話す
- 全員を同じ船に乗せる
- ポジティブなタイムアウト
- 親/教師/生徒会議
- スモールステップで進むこと

1.3.6. 親/教師/生徒会議

1.3.7. 教師による教師のための問題解決ステップと勇気づけ会議

2. クラス会議を支えるもの

2.1. アドラー心理学について cf. 2002年度第5回学習会資料(KAZU)
<http://www.pat.hi-ho.ne.jp/soyama/gakusyuukai/gakusyuukai.html>

2.2. 七つの法則

2.2.1. 三つの勇気を与えるものの見方

- 自分自身の有能さに関する認識：「私は有能だ。」
- 重要な人間関係において自分には存在意義があるという認識：「私は意味のあるやり方で他人に貢献でき、そして私は純粹に必要とされている。」
- 自分の人生に影響を与えるだけの力を自分が持っているという認識：「私は自分に起こることに対して影響を与えることができる。」

2.2.2. 四つの基本的スキル

- 自分自身の感情を理解し、その理解を自己規律、自己コントロールを伸ばすために用い、そして経験から学ぶ能力。
- 傾聴、コミュニケーション、協力、交渉、分かち合い、そして共感することを通して他者と一緒にやっていく能力。
- 責任感、適応力、柔軟性、そして誠実さをもって、日常生活の限界と結末に対応する能力。
- 知恵を発達させ、適切な価値観に基づいて状況を評価する能力。

2.3. 共同体感覚

たとえば、他人や、コミュニティや、環境に対して気を配り、関心を持つという態度。さらに、この関心を表現するのに必要な行為など。

<訳注> 個人心理学講義

・人は、周りの人とかかわりながら生きている。それゆえ、自分のことだけでなく、他の人にも関心を持ち、社会とのかかわりの中、人生の有用な面において勇気を持って人生の課題（仕事、交友、愛）に立ち向かっていかなければならない。この共同体感覚は、意識して育んでいかなければならない生得的な素質である、とアドラーは考えている。

・「他の人の目を見て、他の人の耳で聞き、他の人の心で感じる」（イギリスの作家らしい）
共同体感覚の許容しうる定義であると思える、とアドラーはいつている。

・自分のことだけに関心を持つことの逆。すなわち、他の人に関心を持つことが共同体感覚を持っているということ。

social interest(社会的関心) が最もよく用いられる

2.4. 傾聴：傾聴のスキルを教えるための活動、ロールプレイ ex. 「私の話を聞いて」

2.5. 私メッセージ：私メッセージの練習「私は 　　　　なので幸福でした。そして、私は 　　　　を望んでいます。」 cf. 「親業」トーマス・ゴードン

2.6. 勇気づけ 褒めること

2.7. 解決の四つのR

- 関係があること(Related)
- 尊敬の念をもっていること(Respectful)
- 理にかなっていること(Reasonable)
- 事前に知らせること(Revealed)

2.8. 選択肢のホイール

3. クラス会議の実践における問題と期待される効果 <資料>

参考文献

- アルフレッド・アドラー（岸見一郎訳 野田俊作監訳） 1996 個人心理学講義 - 生きることの科学
一光社
- ジェーン・ネルセン, リン・ロット, H・ステファン・グレン（会沢信彦訳） 2000 クラス会議で
子どもが変わる - アドラー心理学でポジティブ学級づくり コスモス・ライブラリー
- 國分康孝(監修) 1997 エンカウンターで学級が変わる part2 中学校編 図書文化社
- ロバート・W・ランディン(前田憲一訳) 1998 アドラー心理学入門 一光社
- ルドルフ・ドライカース（宮野栄訳 野田俊作監訳） 1996 アドラー心理学の基礎 一光社

《第二部》エクササイズ

1. コンプリメントと感謝の言葉を練習する
 - 1.1. 「与える」, 「受け取る」, 「パス」
2. 異なった現実について学ぶ